

本町橋

ほんまちばし ● Hommachi-bashi
〈東横堀川〉



現役の橋としては大阪市内最古の本町橋。歴史あるこの橋は、豊臣秀吉が大坂城築城に際し、外堀の東横堀川を開削したのと同時期頃に架けられたと考えられており、戦略上においても重要な橋だったようだ。

江戸幕府が豊臣家を滅ぼした戦い「大坂の陣」でも争奪戦の場になったといわれている。ちなみに、慶長20(1615)年「大坂夏の陣」でついに落城することとなった。

江戸時代には、公儀橋の一つとして幕府が直轄管理していた。また、大阪城の三の丸が市街地となり、橋の東側は石畳が敷かれ荷揚場になるなど商業地として発展した。享保9(1724)年以降、橋詰の北東側(現在のマイドームおおさか辺り)に西町奉行所が設けられ、行政の中心地ともなった。

現在の橋は、大正2(1913)年、本町通が市電第三期線事業で拡幅された時に架け換えられたもので、鋼アーチで石造りの橋脚はルネサンス風の重厚感ある橋となった。その後、昭和57(1982)年に大規模な補修が行われた。昨年からは歴史ある橋や川という資源を活かすため、区役所と住民の協働で橋の清掃(橋洗い)を行っている。